



Title	データ・イン・アクション：オープンサイエンスを背景としたエスノグラフィの研究データ管理教材の開発
Author(s)	神崎, 隼人; 森本, 早紀; 韓, 智仁 他
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/101953
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



データ・イン・アクション

オープンサイエンスを背景とした
エスノグラフィの研究データ管理教材の開発

大阪大学

神崎隼人・森本早紀・韓智仁・原山都和丹

I 目的

- オープンサイエンスで、「研究データ」と「人材育成」に注目が集まる。
- エスノグラフィにおける特徴を明らかにし、それを踏まえた教材の開発に関して、大阪大学での取り組み事例を共有する。
- エスノグラフィやフィールドワーク教育に従事する教員へ、OSにおけるエスノグラフィの研究データ管理と教育について知見を提供する。自身の研究プロジェクトでのデータ管理を考えたい研究者一般に、研究データをめぐる実践を再考する機会を与える。

開発した教材

- 修士・博士課程の学生を対象としたe-learning形式の機械音声読み上げ
 - *NII開発のシステム、本学のシステムを利用
- エスノグラフィの研究ライフサイクルに沿って研究データの取り扱いを学ぶ
- 研究のデザインからデータの収集、蓄積、分析、共有、公開までの各段階におけるデータ管理のポイントを解説（全5回）

KANZAKI Hayato 神崎 隼人
教員

研究データマネジメントを知る 学習時間 11分 25秒 他のブックを配信

作成日: 2011年7月7日 更新日: 2025年3月28日 作成者: KANZAKI Hayato 神崎 隼人 [ブックの詳細](#)

1 オープンサイエンス時代における研究デ…
58秒

2 研究データマネジメントの必要性
3分 21秒

3 研究データマネジメントの意義
44秒

4 研究データのライフサイクル
2分 13秒

5 世界と日本におけるオープンサイエンス…
2分 42秒

6 研究者の負担軽減のための取組み
1分 24秒

7 参照資料
3秒

2025年度

エスノグラフィの研究データ管理入門

オープンサイエンス時代のなかで

附属図書館 研究開発室
人間科学研究科 人類学／科学技術と文化

本教材は「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」における研究データ管理教材実践編として作成されました

解説

トピックの詳細

本教材では、新任教員研修プログラムとして、オープンサイエンス時代における研究データマネジメントの基礎について学ぶことができます。
本教材は、AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業において作成された「研究データ管理教材 基礎編」を基に作成しています。
本プログラムは、7つの動画から構成されています。
項目1および2：研究データマネジメントに関する概要について
項目3から6：研究データのライフサイクルの段階に沿ってそれぞれの概要について
項目7：研究データ基盤やその連携の状況について
研究データマネジメントとはそもそも何か、について、その必要性や意義に触れながらお話しします。

※イメージ

II 問題の所在

エスノグラフィの研究データをめぐる実践と環境、その教育

背景：オープンサイエンスの潮流

【オープンサイエンス】 Open Science

- 2010s～
- 論文のオープンアクセス、研究データのオープン化（自由で公平なアクセス、公開、利活用）。研究の透明性、公的研究資金による成果の社会還元。
- e.g. “即時OA”（学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針）。
- 大学の機関リポジトリを活用（⇔ 大手海外出版社の寡占）
- 人材育成……研究データの利活用に通じた研究者の育成、育成環境の構築

従来の教材の検討

- 既存のエスノグラフィの調査・分析手法の教科書
- 実践的過程として … エスノグラフィは、フィールドワーク、分析、概念化、執筆、編集の過程＝〈エスノグラフィの研究サイクル〉からなる
- フィールドとの協働的でネットワーク状の知識産出

- 問題点：〈エスノグラフィの研究サイクル〉における研究データ管理方法への実践的な言及は限られているか、現在の研究環境にあまり適していない。

- 参考資料：シカゴ大学図書館 "Data Management for Anthropologists"、AAA倫理綱領

デジタル化、インターネット環境

今日のエスノグラフィとは、その少なからぬ部分がインターネット環境下において、膨大な量かつ多様な特徴のデジタルデータと日々取り組み続け、そしてそれらに翻弄される知識実践となった。

- フィールドワークの事前の情報収集
- 大量の文献PDF、書誌情報、Zoteroなどでの管理
- フィールドノーツの清書、日々の研究アイデアのメモをWordや文書作成アプリで
- クラウド上でデータの管理、協働プロジェクトでのデータ共有
- スマートフォンで写真や映像の撮影、インタビュー録音が簡単に

「研究データ管理計画（DMP）」の作成

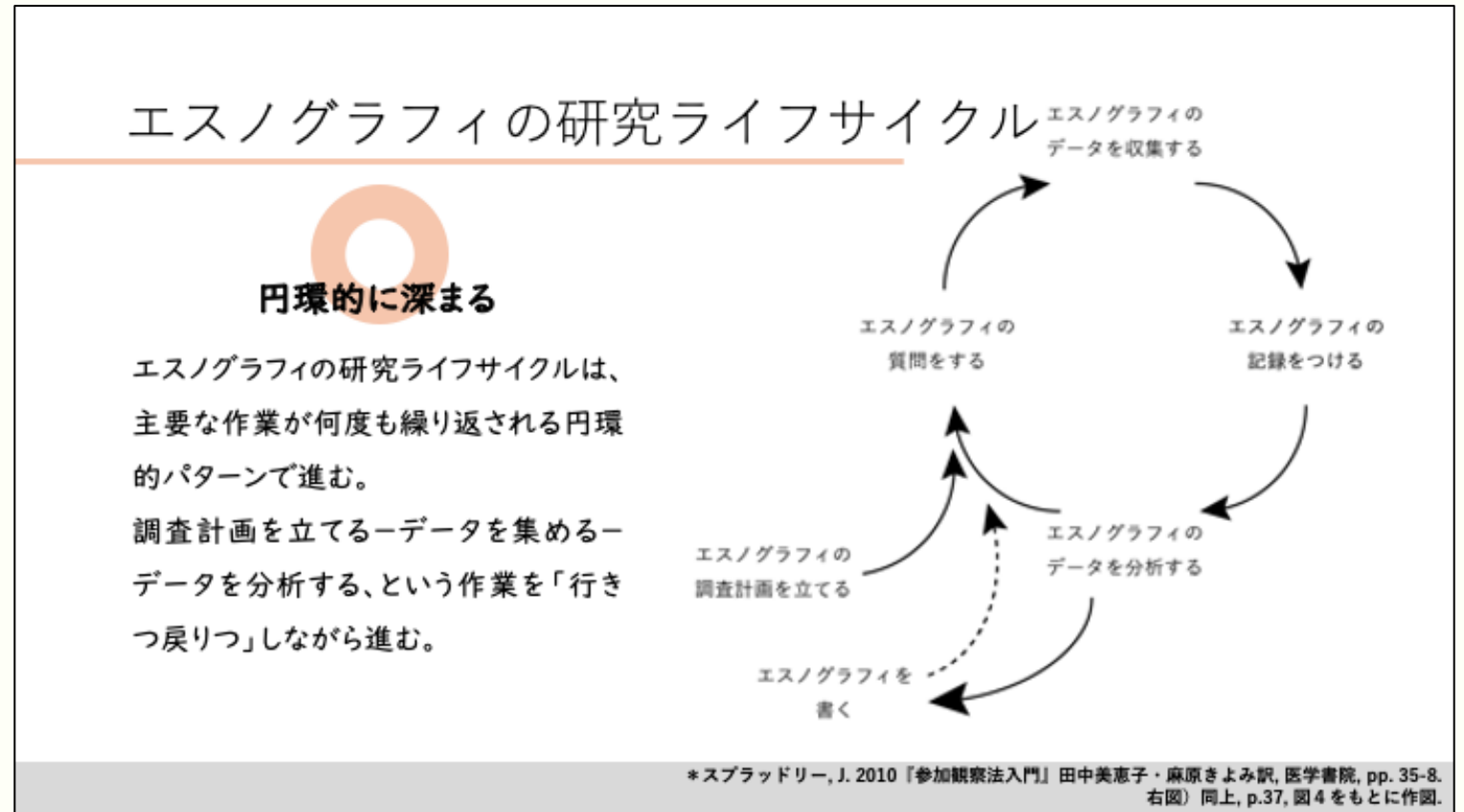
- 令和6年度以降に実施する新規及び継続を含む全ての研究課題
- 研究データの管理計画書「データマネジメントプラン（DMP）」を活用し、研究データの適切な管理や利活用の促進に努めること。
- 「オープン・アンド・クローズ」… 論文エビデンスデータは原則公開。ただし、研究分野等の特性や、データを管理する組織の特性に配慮して、公開、共有、または非共有非公開の判断。留意すべき研究データは非公開。

III 教材「エスノグラフィの研究 データ管理入門：オープンサイエンス 時代のなかで」開発の過程

講義 I

- ・ エスノグラフィの研究サイクルと研究活動によって取得、収集、生成される研究データについて

(講義 I の講義スライド)



講義2

- エスノグラフィの研究データを収集、公開する際に生じうるリスクと、それらに対する事前の準備について
- エスノグラフィの研究データの特質と倫理（研究倫理委員会への申請）
- データ管理計画（DMP）の作成
 - 様々な個人情報の取り扱い
 - 研究データの保管方法
 - 海外フィールドワークと研究データ管理

講義3

- 調査中に取得するデータの種類と、その具体的な管理方法の提示
 - フィールドノート
 - インタビューデータ
 - 写真や映像、その他視覚的データ
 - web上のデータ

講義4

- 調査後、分析から執筆に至る段階で生み出されるデータの種類と管理方法
 - ① フィールドで収集・取得・作成したデータ（講義3）
 - ② 分析段階で新たに生み出されるデータ（コード表、分析メモ、ダイアグラム）
 - ③ エスノグラフィの執筆に使われるデータ（引用-注釈ユニット、文献データ、他の調査データ）
- 質的データ分析ソフトや研究データ管理基盤の活用
 - e.g. MAX QDA、NVivo / GakuNin RDN

講義5

- 研究データの共有や公開を可能にする協働的・参加型のエスノグラフィのデザイン
- Open Ethnography (森田・モハーチ・サンピエール発表)
- 機関リポジトリOUKAを通じたフィールドノートや写真の順次公開

教材開発を通じた課題発見

- 研究倫理審査の見直しという課題を発見
 - 既存の研究データ管理に関する項目
 - …「USBやHDDに保存し施錠できるキャビネットに保管」など
 - 現在の実際の研究環境（e.g. クラウド環境）との乖離
- 大阪大学の研究データ基盤（学内ストレージONION）の活用
- 関連部局（ELSIセンター）との連携による、クラウド環境下に適した研究データ管理上の倫理審査の改定

IV まとめと展望

- 展望：データ実践を共有／それぞれの環境に合わせた展開
 - 全国的なプラットフォーム、国立情報学研究所（NII）のe-learningシステムでの公開。
 - クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（CC BY）を付与した状態で、機関リポジトリ等でPPTファイルを公開 ⇒ 利用者の環境に適合するよう改変

謝辞

- 本研究を進めるにあたり、インタビュー調査のご協力を賜りました綾部真雄先生、深山直子先生、小田博志先生、村津蘭先生、中空萌先生に心より感謝申し上げます。
- 本発表は文部科学省「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」の研究成果の一部です。